

映画の迫力は、映画鑑賞時の環境選びに影響する？

映画好き女子が集まるトーキョー女子映画部では、上記テーマで聞き取り調査を実施しました。ぜひとも貴媒体にてニュース掲載をお願い致します。

※恐れ入りますが、こちらのニュースを掲載頂ける際は、編集して掲載される場合も、映画『アメリカン・スナイパー』を題材にしていること、「トーキョー女子映画部」による検証ということを必ず記載頂きますようご協力をお願い致します。

戦争映画の迫力は、映画鑑賞時の環境選びに影響するのか

迫力のある映像や音響で臨場感を演出している戦争映画。だが、作り手の意図は映画鑑賞者にどれくらい伝わっているのだろうか。この度、映画好き女子が集まるトーキョー女子映画部では、『アメリカン・スナイパー』をドルビーアトモス（ホームシアター版）にて鑑賞する部活を行った。アカデミー賞®音響編集賞を受賞した本作だが、参加した女子たちはその良さを堪能できたのか、また普段映画鑑賞の際、どこまで鑑賞環境を意識しているかについて、聞き取り調査を行った。



Q：ドルビーアトモスで『アメリカン・スナイパー』を観て、音響の良さは感じられたか？

- ・ すごく感じられた：22.2%
- ・ なんとなく感じられた：77.8%
- ・ わからない：0%

音響の良さを感じた 100%！

鑑賞後の座談会では、「映画に集中していたので、音響が印象に残るシーンに注意することすら忘れていた」という人がほとんどだったが、これは映画の音響が良かったからこそ、映画に集中できた証拠と言えるのではないだろうか。だが、よくよくシーンを振り返ってもらい、音響効果を感じられたシーンを尋ねると、「砂嵐のシーン」と答えた人が多数いた。銃撃、爆撃シーンの迫力が音で伝わってくるのはもちろんのこと、砂嵐のように粒子が舞う繊細な音ほど、音響効果が発揮されるのだろう。それでは、こういった戦争映画を楽しむ際、ユーザーは鑑賞環境をどこまで意識しているのだろうか。

Q：戦争映画のような迫力のある映画を観る際、鑑賞環境にこだわるか？

■家で観るときは周りの細かい音が気になるので、イヤホンをして観ます。スケールを

